（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２５年度（令和　７　年度）学校評価自己評価表

城北中学校区	校番５６	福山市立久松台小学校
	最終更新日	2025年（令和７年）４月１１日

Ⅰ　福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けて PDCA サイクルに則り実践する。

児童生徒の現状

全国学力調査の結果、福山市の平均正答率を上回ることができたものの、正答率４０％未満の生徒の割合は少なくない。また、不登校児童生徒も少なからずいる。

育成する力 資質・能力	主体的に判断する力・課題を発見し解決する力・地域社会と協働して貢献する力
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・自ら考え、主体的に判断し、自律した行動ができる児童生徒 ・豊かな心を持ち、お互いを尊重し、人を大切にする児童生徒
中学校区として 統一した取組等	・CS をベースにした校区合同研修と合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・DC 教育を基に、ＩＣＴを活用した個別最適化した授業実践及び協議・交流の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・地域と協働した合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組

Ⅲ　自　校

ミッション

未来を切り拓く「生きる力」を育成する
「すべては子どもたちのために」を基底に据え、学校・保護者・地域が連携し、「この学校へ来てよかった」「この学校へ来させてよかった」といわれる学校に

学校教育目標

自ら考え　正しく判断し　行動する　感性豊かな子

現　状

＜テストで測れる学力＞（全国学力・学習状況調査等の結果より）
【〇成果　●課題】
〇全国学力・学習状況調査の「国語・算数」では全国平均・県平均を上回り、基礎的・基本的な学力はおおむね定着している。また、無回答率が低かった。
〇授業づくりで、PDCA サイクルを意識した指導をすることで、児童の主体性を伸ばすことができた。
●国語科で、提示された全ての条件を満たして書く力が弱い。また、主語と述語の関係を捉える力が弱い。
●算数科で、二次元の表など、多くの情報の中から必要な情報を見つけ出す力が弱い。
＜非認知能力＞（２０２４年度に職員で分析した児童の実態より）
【〇自律に向かっている姿　●自律から遠ざかっている姿】
〇自己選択し、それを実行する力が伸びている。
〇振り返りから次の目標設定につなげることができてきている。
●自己の伸びや課題についてのメタ認知や、それをする習慣や、メタ認知のための語彙などが育っていない。

育成する力 資質・能力	主体的に判断する力 主	課題を発見し解決する力 課	地域社会と協働して貢献する力 地
めざす子ども像	自分の考えや経験を基に主体的に判断し、自己決定したり、じっくり内省したりして、自律に向かうことができる。	身の回りから課題を見つけ、自分で考えたり他者と協働したりして解決しようとしている。	地域のよさや課題に目を向け、自分にできることを考え実践している。

研究	テーマ	対話と書くことを通して、自己の変容を自覚できる学びの創造 ～国語科・外国語科の授業展開の工夫を通して～
	内容等	【自己の変容を自覚できる４つの柱】 ① 学びの質を高める話し方・聞き方導入 ② 外国語科・外国語活動におけるモデル授業の展開 ③ 国語科における対話型授業の展開 ④ 自己表現（自己の認識と変容を自覚）できる振り返り
めざす授業の姿		対話と書くことを通して、自己の変容を自覚できる授業 主 児童が自己決定したり、じっくり内省したりする授業 教師が、児童の実態から的確なファシリテートをする授業 課 課題に対して自己決定や自己選択することができ、児童が進んで挑戦できる授業 地 受容的な対話や協働的な課題解決を通して、新たな気付きが得られ、自己の変容を自覚できる授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立久松台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	総合評価	改善方策
４	自ら考え学ぶ児童（主体性）の育成	★	新規	対話と書くことを通して、自己の変容を自覚し、そこから前向きに学びを見出す、自律した児童を育成するとともに、確かな学力を定着させる。	学びの質を高める話し方・聞き方を導入し、対話型の授業を展開する。 自己の認識と変容を自覚できる振り返りを行う。 児童のつまずきを把握し、基礎学力を定着させる。	「友達の意見を聞いて新たな考えをもったり、自分の考えを見つめ直したりしている。」と答える児童の割合を、各学級８０％以上にする。 「帯タイムを活用して児童のつまずきを補充する」を１００％実施する。									
			継続	自分の良さに気付き、自信をもって物事に挑戦できるとともに、思いやりをもって相手と関わることができる児童を育成する。	自分や友達の良さに気付き、伝え合う取組を行う。週に１回の「なかまタイム」、たてわり掃除等を実施し、他者（児童も教職員も）と関わる場を設定する。教職員間で学級経営について分析・交流し合う研修を実施する。	「自分には、よいところがある」と肯定的に答える児童を８５％以上にする。									

			継続	自分の心身を大切にし、健康の保持・増進に向けて行動することができる児童を育成する。	年間を通して体力の向上や運動の楽しさを感じられる取組を行う。ミニ保健やランチルーム給食を通して、児童の実態に応じた保健指導・食に関する指導を行う。	体力・健康に関するアンケート（運動・保健・食に関する指導の観点）から健康の保持・増進に向けた行動ができているという児童をどの項目においても85%以上にする。									
４	教職員の資質・能力の向上	★	新規	児童が自己の変容を自覚できる授業を創造する。	教職員が、「自己の変容を自覚できる授業づくり」に取り組むヒントを得られる研究授業や職員研修を計画、実施する。	学期末に、教職員アンケート「前回の研究授業で得た学びを基に、どのような取組をしましたか。」を実施し、意欲的に取り組む割合を、90%以上にする。									
４	地域に貢献する学校		継続	持続可能な社会について探究し、地域に還元できる児童を育成する（SDGｓ・CS）	生活科の学習や総合的な学習の時間に、地域に根づいた持続可能な社会づくりについて学び、実践をする。	児童アンケート「持続可能な地域社会づくりのために自分達ができる事に取り組んでいる」に対する肯定的割合を 80％以上にする。									

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。